

【 企 業 動 向 調 査 （ 製 造 業 ） 概 況 】

2026 年 4 月～6 月期の企業動向調査（市内製造業 94 社）を行った結果、業況判断指数 D I は 7.2 ポイントとなりました。

前期調査結果（2026 年 1 月～3 月：11.7 ポイント）と比較して 4.5 ポイント悪化しました。

その他経営上の問題については、「原材料・仕入品単価の上昇」、「人材不足（技術者等質的なもの）」「労働力不足（量的なもの）」などの意見がありました。

1 業種別の業況判断前期比 D I

業種	前期比 D I	前期との差
食品	20.0	3.4
金属	▲ 6.6	▲ 6.6
一般機械	45.5	9.1
電気機械	25.0	15.9
木材家具	▲ 40.0	▲ 40.0
その他業種	▲ 8.3	▲ 17.4

2 業種別の次期予想 D I （2026 年 7 月～9 月）

次期予想は▲ 5.3 ポイントで、今期調査結果(7.2)より、12.5 ポイント悪化する予想となりました。

業種	次期予想 D I	今期との差
食品	0.0	▲ 20.0
金属	▲ 6.7	▲ 0.1
一般機械	0.0	▲ 45.5
電気機械	▲ 12.5	▲ 37.5
木材家具	▲ 20.0	20.0
その他業種	0.0	8.3

3 経営上の主な問題点

	問題点	割合
1 位	原材料・仕入品単価の上昇	72.7%
2 位	人材不足(技術者等質的なもの)	58.2%
3 位	労働力不足(量的なもの)	36.4%
4 位	受注の減少	30.9%
5 位	納期の短縮	18.2%

企 業 動 向 調 査

【 2026 年 4 月～6 月期 <二期> 】

【調 査 概 要】

須坂市産業振興部産業政策課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年 4 回市内企業を対象にアンケート調査を実施している。

今回は 2026 年 4 月～6 月期<二期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実 施 時 期 2026 年 7 月

対 象 企 業 須坂市内に本社または事業所を有する製造業企業 94 社

回答企業数 56 社 （回答率 59.6%）

【調 査 結 果】

自社業況判断 （D I = 好転－悪化）

	好転	悪化	D I	比較
前期比	28.6% (前期 31.7%)	21.4% (前期 20.0%)	7.2	前期より 4.5 ポイント悪化
前年同期比	30.4% (前期 36.7%)	25.0% (前期 26.7%)	5.4	前期より 4.6 ポイント悪化
次期予想	16.1%	21.4%	▲ 5.3	今期より 12.5 ポイント悪化と予想

受 注 引 合 （D I = 増加－減少）

	増加	減少	D I	比較
前期比	32.1% (前期 33.3%)	16.1% (前期 25.0%)	16.0	前期より 7.7 ポイント増加
前年同期比	35.7% (前期 36.7%)	25.0% (前期 31.7%)	10.7	前期より 5.7 ポイント増加
次期予想	19.6%	25.0%	▲ 5.4	今期より 21.4 ポイント減少と予想

生 産 量 （D I = 増加－減少）

	増加	減少	D I	比較
前期比	33.9% (前期 31.7%)	21.4% (前期 23.3%)	12.5	前期より 4.1 ポイント増加
前年同期比	37.5% (前期 30.0%)	23.2% (前期 31.7%)	14.3	前期より 16.0 ポイント増加
次期予想	19.6%	23.2%	▲ 3.6	今期より 16.1 ポイント減少と予想

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

	低下	上昇	D I	比較
前期比	0.0% (前期 1.7%)	82.1% (前期 78.3%)	▲ 82.1	前期より 5.5 ポイント 悪化
前年同期比	0.0% (前期 1.7%)	91.1% (前期 86.7%)	▲ 91.1	前期より 6.1 ポイント 悪化
次期予想	1.8%	67.9%	▲ 66.1	今期より 16.0 ポイント 好転と予想

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

	上昇	低下	D I	比較
前期比	41.8% (前期 23.3%)	1.8% (前期 1.7%)	40.0	前期より 18.4 ポイント 上昇
前年同期比	60.0% (前期 41.7%)	1.8% (前期 5.0%)	58.2	前期より 21.5 ポイント 上昇
次期予想	36.4%	5.5%	30.9	今期より 9.1 ポイント 低下と予想

資金繰り (D I = 好転－悪化)

	好転	悪化	D I	比較
前期比	10.7% (前期 10.0%)	16.1% (前期 15.0%)	▲ 5.4	前期より 0.4 ポイント 悪化
前年同期比	16.1% (前期 6.7%)	21.4% (前期 23.3%)	▲ 5.3	前期より 11.3 ポイント 好転
次期予想	7.1%	14.3%	▲ 7.2	今期より 1.8 ポイント 悪化と予想

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

	増加	減少	D I	比較
前期比	23.2% (前期 18.3%)	8.9% (前期 16.7%)	14.3	前期より 12.7 ポイント 増加
前年同期比	30.4% (前期 16.7%)	10.7% (前期 21.7%)	19.7	前期より 24.7 ポイント 増加
次期予想	16.1%	8.9%	7.2	今期より 7.1 ポイント 減少と予想

収益率 (D I = 上昇－低下)

	上昇	低下	D I	比較
前期比	10.7% (前期 20.0%)	32.1% (前期 21.7%)	▲ 21.4	前期より 19.7 ポイント 低下
前年同期比	17.9% (前期 18.3%)	37.5% (前期 28.3%)	▲ 19.6	前期より 9.6 ポイント 低下
次期予想	16.4%	30.9%	▲ 14.5	今期より 6.9 ポイント 上昇と予想

経営上の問題点（複数回答）

	問題点	割合	前回比較
1 位	原材料・仕入品単価の上昇	72.7%	→
2 位	人材不足(技術者等質的なもの)	58.2%	→
3 位	労働力不足(量的なもの)	36.4%	↑
4 位	受注の減少	30.9%	↓
5 位	納期の短縮	18.2%	↑
6 位	技術力の不足	16.4%	↓
7 位	同業他社との競争激化	14.5%	→
8 位	為替相場の変動	10.9%	↓
9 位	製品販売価格の低下	5.5%	↑
9 位	金融難	5.5%	→
11 位	取引先の海外シフト化	1.8%	→
12 位	人員過剰	0.0%	→

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食 品

	好転	悪化	D I	比較
前期比	20.0% (前期 33.3%)	0.0% (前期 16.7%)	20.0	前期より 3.4 ポイント 好転
前年同期比	20.0% (前期 33.3%)	20.0% (前期 16.7%)	0.0	前期より 16.6 ポイント 悪化
次期予想	20.0%	20.0%	0.0	今期より 20.0 ポイント 悪化と予想

業種別自社業況判断／金属機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	26.7% (前期 31.3%)	33.3% (前期 31.3%)	▲ 6.6	前期より 6.6 ポイント 悪化
前年同期比	33.3% (前期 37.5%)	33.3% (前期 43.8%)	0.0	前期より 6.3 ポイント 好転
次期予想	13.3%	20.0%	▲ 6.7	今期より 0.1 ポイント 悪化と予想

業種別自社業況判断／一般機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	45.5% (前期 45.5%)	0.0% (前期 9.1%)	45.5	前期より 9.1 ポイント 好転
前年同期比	36.4% (前期 63.6%)	18.2% (前期 9.1%)	18.2	前期より 36.3 ポイント 悪化
次期予想	18.2%	18.2%	0.0	今期より 45.5 ポイント 悪化と予想

業種別自社業況判断／電気機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	37.5% (前期 27.3%)	12.5% (前期 18.2%)	25.0	前期より 15.9 ポイント 好転
前年同期比	50.0% (前期 63.6%)	25.0% (前期 9.1%)	25.0	前期より 6.8 ポイント 好転
次期予想	0.0%	12.5%	▲ 12.5	今期より 37.5 ポイント 悪化と予想

業種別自社業況判断／木材家具

	好転	悪化	D I	比較
前期比	0.0% (前期 20.0%)	40.0% (前期 20.0%)	▲ 40.0	前期より 40.0 ポイント 悪化
前年同期比	0.0% (前期 0.0%)	40.0% (前期 40.0%)	▲ 40.0	前期より 0.0 ポイント 好転
次期予想	0.0%	20.0%	▲ 20.0	今期より 20.0 ポイント 好転と予想

Q10 日銀松本支店が7月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(3月)と比較して、前回と変わらずプラス 10 ポイントとなりました。製造業は、プラス 8 ポイントと 7 ポイント好転、非製造業は、プラス 12 ポイントと 8 ポイント悪化しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

好転している	26.8%
今はないが、今後好転が見込まれる	5.4%
変わらない	39.3%
今はないが、今後悪化が見込まれる	16.1%
悪化している	12.5%

※四捨五入の関係で、合計が 100 にならない場合があります。

Q11 貴社では、働き方改革に関してどのような取り組みを実施していますか。該当するものをすべてお選びください。(複数回答可)

残業時間の削減	41.1%
年次有給休暇の取得促進	50.0%
柔軟な勤務（フレックス、時差出勤、短時間勤務など）	17.9%
業務の効率化（IT 機器・ソフトの導入、作業手順の見直しなど）	32.1%
一人で複数の作業をこなせる人材育成（多能工化）	42.9%
育児・介護をしながら働ける環境づくり	26.8%
賃金・処遇の改善	44.6%
特に取り組んでいない	14.3%
その他	0.0%

Q12 働き方改革に取り組んだ（または取り組もうとした）一番の目的は何ですか。

人材の確保・離職防止のため	33.9%
法令（残業上限規制など）に対応するため	8.9%
生産性・業務効率を高めるため	23.2%
従業員の要望に応えるため	17.9%
取引先・社会的な要請のため	3.6%
特に取り組んでいない	10.7%
その他	0.0%

Q13 働き方改革を進めるうえで、貴社が直面している課題は何ですか。該当するものをすべてお選びください。（複数回答可）

人手が足りず、仕事を分担できない	44.6%
現場作業が中心で、勤務時間を柔軟にしにくい	30.4%
設備投資や IT 化に充てる資金が足りない	16.1%
何から始めればよいか分からない（ノウハウ不足）	5.4%
取引先の都合（納期・コストなど）で調整しにくい	26.8%
経営者・従業員の意識が追いつかない	12.5%
取り組む時間的・人的な余裕がない	19.6%
特に課題はない	12.5%
その他	1.8%

Q13-2「その他」とお答えになられた方。目的についてご記入ください。

- 工場増築・新築したいが、市の規制がネックになっている。

Q14 その他経営上の問題があればご記入ください。

- 熱中症対策とその資金。
- 人件費の高騰。
- 納期短縮ではなく、モノの仕入れが遅れている。納めたくても、納期の時間のかかる購入品があって、完成が遅れてしまっているのが問題で、希望納期に間に合わせることが厳しくなっている。
- 金利の上昇。
- 次代の幹部育成。
- 工場増築・新築したいが、市の規制がネックになっている。
- 売り上げが上がっても利益が減っており、仕入れ単価や固定費の上昇が想像以上に大きな負担となっている。
- 全体的に注文が減少しており、半年後の見通しも不透明な状況です。
- 中東問題は少なからず続いています。
- 労基法や衛生法など勝手に義務化してくる事が経営者にとっては非常に負担。資金繰りや仕事営業して社員を養わなければならない日々駆けずり回ってる時に仕事が増えると非常

に経営者として例え義務だとしても一方的すぎるのが負担。

- ナフサ不足の値上げから、潤沢に確保と聞いているが値が下がらない。
- 中東情勢から特にアルミニウムの値上げが大きい。3か月毎UP。しれっと8月にロールマージンUP。価格転嫁が追いつかず、大手材料メーカーはやりたい放題か。
- グローバル企業を謳いながらグローバル人材が決定的に不足している。
- 世界情勢(特にホルムズ海峡問題)で、受注減少+製造原価高騰、更に販売価格転嫁の限界、最低賃金の引き上げなど、小企業にとっては何一つ良い好転材料がない。
- 国は経済対策に力を入れず、今欲しい議論にも行きついていない…明るい希望もありやしない…。
- もう物価高騰抑制は急務。賃金引き上げも一旦ブレーキをかけるべきだ。
- いつまでも企業に潤沢な資金があると思うなよ！
- 電力使用量の増加(省エネ対策)。
- 自発的に行動できる優秀な人材の確保が難しい。管理職的な責任あるポジションに取り組もうとする人材がいない。
- 昨年度よりだいぶ好転してきたが、イラン問題での影響で資材や材料の単価が上がり収益がだいぶ悪くなっている。売値をしっかりと見極めて決めていき、顧客にも理解してもらう努力が必要だ。





